

# 版 築

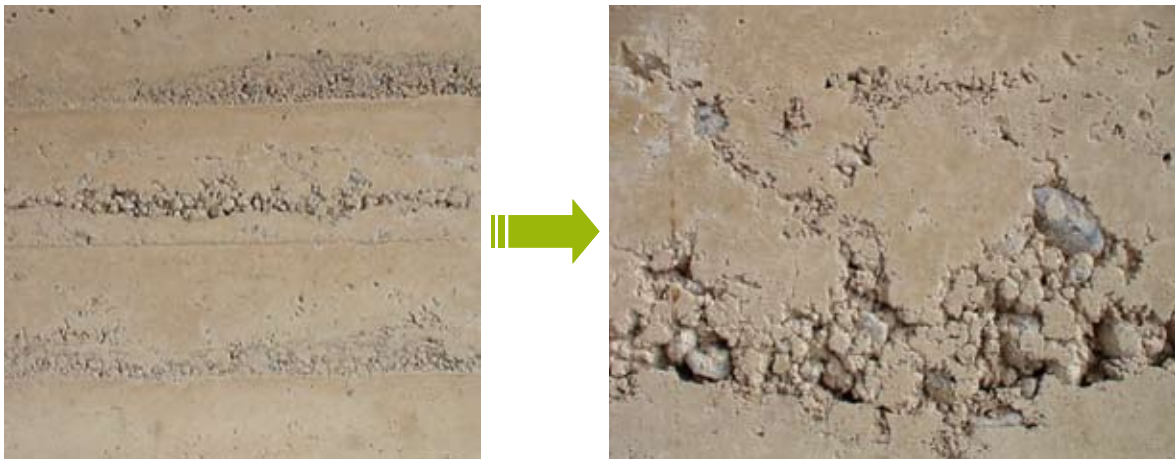
HANCHIKU

## I. 版築工法

中国から飛鳥時代に仏教と共に伝来した工法で、万里の長城の一部・京都寺院の土塀・墓壇に使われておりました。この工法は板枠と板枠の間に土を突き固め幾重にも層を成し、板枠を脱形解体したものです。

真砂土・地場の土・砂利を主原料に生石灰・にがりを繋ぎ材に清水の量と突き固め方法により壁面の表情が変化します。

この工法ですとコスト的に高価になります。同じ表情を塗り壁で表現したのが版築風塗り工法です。



群馬産真砂土 (G-1 荒木田土)  
種石 25 mm砂利 打設厚 20 cm

## II. 版築風塗り工法

版築工法の特徴をわずか塗代7mmから表現することが出来ます。版築塗り工法の大きな特徴は、コンクリート打設の場合ジャンカは嫌われますが、このジャンカを意匠に表現したものです。

### 【版築風塗り工法の特徴】

1. 塗代7mmから版築工法を表現する。
2. 色が多彩。18色の土の色とブレンド色も可能。
3. 板枠の継手や段差が出る。
4. ジャンカを自在に表現する。
5. 土壁表面を濃淡のグラデーションにする。
6. 種石の種類により意匠が変化する。
7. 下地を選ばず、プラスターボード上の施工も可能。

